

「八幡の暮らし」

～ 守る・育てる・伝える ～

八幡振興計画



平成27年2月

八幡自治振興区

1. 計画策定にあたり

1. 計画策定の趣旨について

八幡自治振興区は、平成17年新市庄原市誕生に合わせ「自らの八幡は、自ら創る」ことを理念に設立されました。翌平成18年には、自治振興区の地域づくりの方向性を示した「八幡自治振興計画」が策定され、その後、平成22年に見直しを行い、今日まで地域づくりを進めてきました。

しかし、少子高齢化や人口減少等の社会情勢変化は大きく、厳しい波となって本地域に押し寄せてきています。このような中、深刻な課題に対しあらたな計画をつくり取り組んでいかなければなりません。

ふるさとが未来永劫に輝きつづけるための指針として「八幡の暮らし ～守る・育てる・伝える～ 八幡振興計画」を策定するとともに、住民、振興区役員、委員が共通認識を持ち、積極的に地域づくりを推進していきます。



2. 計画の位置づけと期間について

計画策定にあたっては、これまでの計画を十分に検証・点検した上で、住民ニーズにも柔軟に対応していくため、アンケートやワークショップを重ね、住民の声を盛り込んだ計画となるよう努めてきました。

本計画は、住民の意向を反映した地域づくりの計画として位置付け、期間は平成27年から平成36年までの10年間とします。

なお、本計画策定後も社会情勢の変化や施策の動向を踏まえ、必要に応じて計画内容の検討と見直しを図ることとします。



2. 八幡地域の現状と課題

1. 少子高齢化について

平成26年の総人口は1,000人を割り、0～14歳の年少人口比率が6.9%、15～64歳の生産年齢人口比率が45.2%、65歳以上の老年人口比率が47.9%となっています。また、平成26年の八幡小学校児童数は29名で、少子高齢化が進行し、厳しい状況になっています。

課題項目	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成26年
総人口	1281	1130	1034	948	935
年少人口（0～14歳）	192	116	87	73	64
構成比	15.0%	10.3%	8.4%	7.7%	6.9%
生産年齢人口（15～64歳）	647	556	487	438	423
構成比	50.5%	49.2%	47.1%	46.2%	45.2%
老年人口（65歳以上）	442	458	460	437	448
構成比	34.5%	40.5%	44.5%	46.1%	47.9%

資料：国勢調査（平成26年のみ、住民基本台帳参照）

2. 単独世帯の増加について

八幡地区全世帯のうち、79世帯（22.8%）が単独世帯で、単独世帯予備軍（世帯人数が2人の世帯）は、116世帯（33.4%）となっています。また、65歳以上の単独世帯は59世帯で、全単独世帯のうちの74.7%を占めています。単独世帯や高齢単独世帯の増加は明らかです。

	一般世帯総数	親族世帯						非親族世帯	単独世帯		一般世帯人員数（人）	単独世帯予備軍（2人世帯）
		総数	核家族世帯			その他の親族世帯	総数		65歳以上の単独世帯			
			総数	夫婦のみ	夫婦と子ども							
										男親又は女親と子ども		
平成7年	397	339	175	124	32	19	164	1	57	36	3.22	142
平成12年	374	320	182	117	39	26	138	0	54	43	3.00	142
平成17年	366	299	181	112	43	26	118	1	66	52	2.85	136
平成22年	347	266	158	88	41	29	108	2	79	59	2.74	116

資料：国勢調査

3. 八幡自治振興区の取り組みについて

八幡自治振興区設立後、「地域交流部」「福祉部」「生涯学習部」「特産品推進部」「女性部」「観光推進部」「防災部」が発足し、各部ともに積極的な取り組みを行っています。

その中でも、「地域福祉推進」「特産品の開発・生産販売の推進」「観光事業推進」を重点目標として掲げ、この10年間で「人を元気にし（地域福祉）、誇りを生み（特産品）、地域が元気になる（観光）」取り組みを行ってきました。

今後は、この10年間の活動を踏まえた上で、現状の課題に対応した取り組みを行っていく必要があります。

【地域福祉推進事例】



デイホーム



タクシー送迎



敬老食事会

【特産品推進事例】



唐辛子味噌



収穫祭



山野草茶づくり

【観光推進事例】



森湯谷のエドヒガン



飯山登山



花壇整備

取り組み実績

重点目標	重点課題	17年度	18年度	19年度	20年度
助け合い・支えあい・地域福祉推進	高齢者支援	高齢者支援班発足	介護資格取得		
		敬老記念品贈呈			
					緊急連絡板
地域福祉仕組作り			除雪機配置(8台)		火災報知機補助
		粗大ゴミ			
特産品の開発・生産・販売の推進	特産品加工研究会活動				
	加工所の確保				
	生産販売の推進				
観光事業の推進	美化・景観意識高揚推進			ひまわりの会発足	
	拠点整備推進				
	ものがたり観光推進				

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	デイホーム事業（森、川島）				
			（田黒地域送迎実施）		
		敬老事業支部移管（記念品贈呈、敬老食事会等）			
		敬老者文化祭招待			地域バス減便対策
		市民タクシー検討 見送り	おたがいさまネット 検討・見送り		
		自主防災組織検討	自主防災組織立上	避難名簿整備（要支援者名簿入手）	
			土嚢積み訓練実施	森第一支部訓練	
収集				震災合同訓練実施	広島災害復旧参加
		防犯灯LED化 （200灯）		粗大ゴミ収集（有料化）	
特産品加工研究会 発足	きんさい市入会・販売試行（茶、味噌等）		瓶入唐辛子味噌発売		
			冷凍庫等整備	漬物愛好会募集 不発	
中学校活用 研究会	中学校加工所PJ 発足	加工所整備申請 取下			
		特産品推進部発足	収穫祭開催		
				エドヒガン出店	
		女性部発足		木の駅プロジェクト検討・試行	
ひまわりの種、花の種各戸配付				運動会で翁草配付	
中学校花壇整備					センター公園整備
クリーン作戦、市道草刈					
	エドヒガン一期整備		エドヒガン二期整備	エドヒガン三期整備	
	保存会活動（清掃、整備、出店）				
	保田塩野滝整備			桜植樹祭	
				森ふれあい公園整備	
				飯山見晴らし改善	
八幡宝 ワークショップ	ものがたり観光 PJ発足	観光推進部発足		ホームページリファイン・ 発信・観光協会 活用等	
	ものがたり絵図配付	ガイドブック 製本配付	ホームページ 開設・発信		
	絵図視察	八幡一周 ハイキング		全国ふるさと 富士投稿	
	小学生案内				
白滝、平岩、飯山 登山	飯山登山	飯山山野草観察登山			飯山 春・秋登山
		体験教室開催 （野草茶作り、 唐辛子味噌作り）	体験教室 （唐辛子味噌作り）	座禅と 八幡歴史散策	

3. 住民アンケートの実施と結果

1. 住民アンケート結果

現状の課題や将来の意向を把握し、計画策定の基礎資料とするための住民アンケートを実施しました。結果と、それに伴い予想される必要な取り組みは、以下の通りです。

1. 自治振興区の環境について
<p>■ 「満足」「まあ満足」評価が高かった項目（評価順）</p> <p>① 主要な道路の整備状況 ② 外出の移動手段 ③ 身近な地区の道路の整備状況</p> <p>■ 「不満」「やや不満」評価が低かった項目（評価順）</p> <p>① 病院・診療所 ② 現在の収入や所得 ③ 上水道、簡易水道、下水道、ごみ処理</p>

2. 定住について
<p>■ 「今後も八幡に住み続ける」と回答したのは、全体の約5割</p> <p>○理由として最も多かったのは、田畑や山林があるため</p> <p>■ 転居を考えている人は少数</p> <p>○今後転居した場合、将来Uターンを考えるタイミングとして最も多かった回答は「定年退職時」</p>

3. 生活上で困っていることや不安なこと																																													
<p>■ 困っていること、不安なこと（評価順）</p> <p>① 老後のこと ② 病気・通院 ③ 農地の維持、営農</p> <p>○上位3項目は10年前と同様の結果</p> <p>○平成17年度実施の住民アンケート結果と比較すると、順位が大幅に上がったのは「住宅の老朽化、改造」「子どもの教育、進学」。一方で、大幅に下がったのは「収入・生計」「地域の行事・催し物」。</p> <p>○高齢化に伴い、自分自身（心や体）のことや、身の回り（住まい等）の項目が上位に入った一方で、行事や催し物等の地域に関する項目の順位が下がっている。</p> <p>○世代別でみると、若年層は就職について、中年層は子どもの教育や進学に対する不安回答が多かった。</p>																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>順位変動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老後のこと</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気・通院</td> <td>↑ (+1)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>農地の維持、営農</td> <td>↓ (-1)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>鳥獣被害</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>山林の維持、管理</td> <td>↑ (+1)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>住宅の老朽化、改造など</td> <td>↑ (+3)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>買物・通院等の交通手段</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>収入・生計</td> <td>↓ (-3)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>家の跡継ぎ、結婚</td> <td>↓ (-1)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>子どもの教育、進学</td> <td>↑ (+4)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近所の付き合い</td> <td>↑ (+1)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>就職、就業</td> <td>↑ (+1)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>健康づくり、福祉</td> <td>↓ (-2)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地域の行事・催し物</td> <td>↓ (-4)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※（ ）内の数字は、平成17年度と比較したランキングの順位差。「鳥獣被害」は平成17年度の設定にはなかった新規の項目。</p>		項目	順位変動	1	老後のこと	→	2	病気・通院	↑ (+1)	3	農地の維持、営農	↓ (-1)	4	鳥獣被害	新規	5	山林の維持、管理	↑ (+1)	6	住宅の老朽化、改造など	↑ (+3)	7	買物・通院等の交通手段	→	8	収入・生計	↓ (-3)	9	家の跡継ぎ、結婚	↓ (-1)	10	子どもの教育、進学	↑ (+4)	11	近所の付き合い	↑ (+1)	12	就職、就業	↑ (+1)	13	健康づくり、福祉	↓ (-2)	14	地域の行事・催し物	↓ (-4)
	項目	順位変動																																											
1	老後のこと	→																																											
2	病気・通院	↑ (+1)																																											
3	農地の維持、営農	↓ (-1)																																											
4	鳥獣被害	新規																																											
5	山林の維持、管理	↑ (+1)																																											
6	住宅の老朽化、改造など	↑ (+3)																																											
7	買物・通院等の交通手段	→																																											
8	収入・生計	↓ (-3)																																											
9	家の跡継ぎ、結婚	↓ (-1)																																											
10	子どもの教育、進学	↑ (+4)																																											
11	近所の付き合い	↑ (+1)																																											
12	就職、就業	↑ (+1)																																											
13	健康づくり、福祉	↓ (-2)																																											
14	地域の行事・催し物	↓ (-4)																																											
<p>○高齢化に伴う「老後」「通院」「農地、住宅等」への不安解消となる取り組みが必要</p> <p>○若年層は「就職」、中年層は「子どもの教育・進学」への不安解消となる取り組みが必要</p>																																													

4. 自治振興区の取り組みについて

■ 知られている取り組み（評価順）

- ①収穫祭 ②エドヒガン周辺地域の整備 ③八幡デイホーム事業

■ 知られていない取り組み（評価順）

- ①震災合同訓練 ②八幡ものがたり観光 ③八幡自主防災会の取り組み

○収穫祭、エドヒガン観光、八幡デイホーム事業のより一層の推進と充実を図る
○防災意識を高め、振興区としての体制や機能等を強化しなければならない

■ 成果が上がっていると思われる取り組み（評価順）

- ①八幡自治振興区が頑張っていること ②高齢でも元気で安らかな生活ができること
③生涯学習が積極的に展開されていること

○振興区の取り組みをより一層の充実させること、体制の見直し等により機能強化を図る

■ 今後取り組むべきこと（評価順）

- ①助け合い、支え合い、地域福祉 ②農地、山林の活用 ③地域にある資源の活用

○平成17年度実施のアンケート結果と比較すると、順位が大幅に上がったのは「地域にある資源の活用」「人材の活用」。一方で大幅に下がったのは「特産品の開発、生産、販売」「自治振興区、公民館活動の活性化等」。

○特産品の開発や振興区の活動等、地域活性化に関する項目が大幅にダウンしているが、これは「3.生活上で困っていることや不安なこと」でも同様の傾向で、高齢化に伴い、地域のことよりも、まずは自分自身がどう生きていくのかに重点が置かれている。しかし一方では、「～の活用」の各項目が上位に入っており、今あるものすべてを活かし活用することで「再生」への期待が感じられる。そうした意味では、特産品の開発一つで終わるのではなく、また、振興区の活動活性化一つで終わるのではなく、今ある資源を活用し組み合わせることにより、八幡全体としての盛り上げを期待しているものと考えられる。

○「人材の活用」が大幅に順位を上げているが、下記質問「八幡を元気にする取り組み」でも、「リーダーの育成」が最も多い回答となっており、今後は「人材」がキーワードとなる。

○地域福祉については、今後も最優先に取り組み、充実を図る
○八幡にあるすべての資源（農地、山林、遊休施設、特産物、人）を活かした取り組みが必要

■ 八幡を元気にする取り組み（評価順）

- ①リーダーの育成 ②空き家や遊休施設の活用 ③Uターン対策

○人材の育成と、今後さらに少子高齢化が進む中での定住促進に向けた取り組みが必要

■ 今後参加してみたい取り組み（評価順）

- ①地域の共同作業の実施 ②高齢者向け事業の実施 ③生涯学習活動の実施

○地域(世代間)交流の推進と、高齢者が生き生きと暮らすことできる地域づくりが必要

	項目	順位変動
1	助け合い、支え合い、地域福祉	→
2	農地、山林の活用	↑ (+1)
3	地域にある資源の活用	↑ (+2)
4	人材の活用（特技のある人）	↑ (+3)
5	特産品の開発・生産・販売	↓ (-3)
6	世代間交流の促進	→
7	自治振興区、公民館活動の活性化等	↓ (-3)
8	地域の伝統・文化の伝承	↑ (+1)
9	不明	—
10	地域の美化・景観事業	↓ (-1)
11	都市との交流	→

※（ ）内の数字は、平成17年度と比較したランキングの順位差。

2. 住民意向整理

住民アンケートから、特に「高齢者向け事業の実施」「地域福祉」「生涯学習活動」「地域の共同作業の実施」「リーダーの育成」「資源の活用」「定住促進」の取り組みに対する意向が強いことが分かりました。

	評価の低い項目 ※□は認知度の低い取り組み	評価の高い項目 ※□は認知度の高い取り組み ※下線は意向の強い取り組み
高齢化	・老後の不安	・ <u>高齢者向け事業の実施</u> □ <u>八幡デイホーム事業</u>
医療・福祉	・病院・診療所 ・病気・通院	・ <u>助け合い、支え合い、地域福祉</u> ・ <u>生涯学習活動の実施</u>
地域活性化	・過疎化	・ <u>地域の共同作業の実施</u> ・都市との交流 ・ <u>リーダーの育成</u>
生活環境	・住宅の老朽化 ・上水道、簡易水道、 下水道、ごみ処理	・道路の整備状況 ・外出の移動手段
教育・文化	・子どもの教育・進学	・地域の伝統・文化の継承 ・祭りや文化の復活・見直し
防災	□ <u>震災合同訓練</u> □ <u>八幡自主防災会の取り組み</u>	
産業・雇用	・就職 ・現在の収入や所得 ・農地の維持、営農	・ <u>地域にある資源の活用</u> ・ <u>農地、山林の活用</u> ・ <u>空き家や遊休施設の活用</u> ・ <u>人材の活用</u>
観光	□ <u>八幡ものがたり観光</u>	□ <u>収穫祭</u> □ <u>エドヒガン周辺地域の整備</u> ・情報発信
移住・定住	・人口減少	・ <u>Uターン対策</u> ・若年層の就職先

4. 基本目標

地域の課題やアンケートから見えた住民の意向を踏まえ、今後10年間、地域づくりを進めていく上での基本目標を、次のとおり定めます。

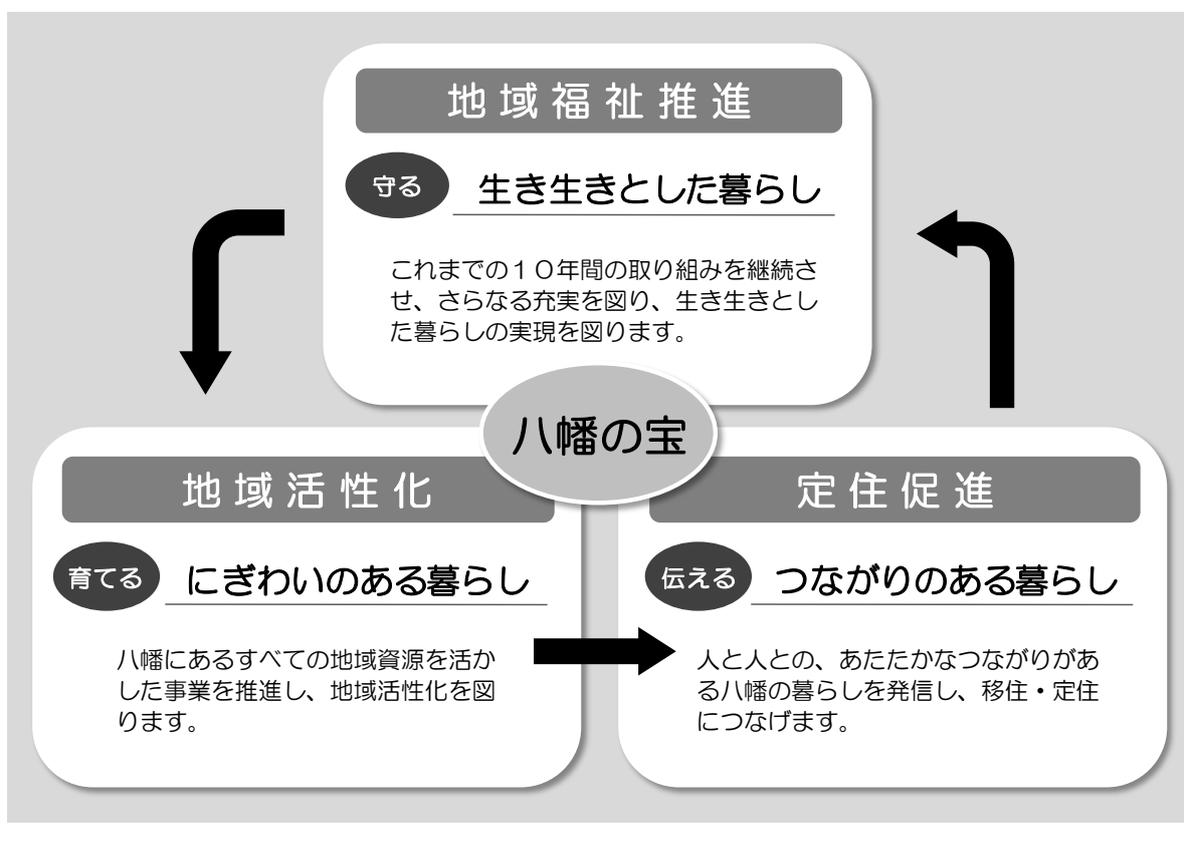
「八幡の暮らし」 ～守る・育てる・伝える～

八幡自治振興区を設立後、「人を元気にし（地域福祉）、誇りを生み（特産品）、地域が元気になる（観光）」取り組みを10年間行ってきました。

地域福祉では「デイホーム事業の実施」、特産品では「唐辛子味噌の販売」、観光では「森湯谷エドヒガン周辺の整備実施」等、地域の宝となる芽が着実に生まれています。今後は、この大切な芽を摘むことなく守っていくこと、そして、大きく育てていかなければなりません。

しかし、住民の高齢化は進み、子どもは減り、過疎化はさらに進行していきます。将来にわたって持続可能な地域にするためにも、この10年間で生まれた「八幡の宝」を、今後は地域外に向けて発信強化し、人口を増やしていく努力が必要だと考えます。以上のことから、

「地域福祉推進」（守る） 「地域活性化」（育てる） 「定住促進」（伝える）
この3点を、今後10年間の基本目標とし、地域づくりを推進していきます。



5. 方向性と取り組み

「地域福祉推進」「地域活性化」「定住促進」における方向性と取り組みを、次のとおり定めます。

目標	方向性	具体的な方向性	取り組み
地域福祉推進	高齢者福祉推進	介護予防	デイホーム事業の充実・拡大
			送迎バス対策
		生きがいづくり	生涯学習等の充実
	地域交流推進	地域行事、 世代間交流の充実	地域運動会の充実
			盆祭り大会の充実
	安全安心な 地域づくり	防災体制強化	安否確認システムの構築
			被災時の拠点機能強化
地域活性化	地域資源を活用 した事業推進	自然環境を活かした 観光の活性化	エドヒガンの活用
			飯山の活用
		歴史・文化を活かした 観光の活性化	体験・散策メニューの充実
		地域の産物を活かした 特産品の推進	収穫祭の充実
			商品のPR、開発推進
	都市部との交流	体験型旅行の推進	
定住促進	若年層の定住促進	地域行事の充実	若い世代が集まる場を設置
	子育て支援推進	教育の充実	八幡ならではの特色ある教育の実施
	住宅（空き家活用） ・就職先の支援	受け入れ体制の整備	地域一体となった体制の充実

【その他課題事項】

- 各支部と行政区の見直し（区域、役割等）
- 各支部と行政区における活動の充実、情報交換や交流会の実施
- 自治振興区見直し（事務機能、人員、HP等）

具体例		
●実施地区の拡大	●ホームヘルパー資格取得者増強	●実施回数の増加
●自治振興区による送迎バスの運行		
●音楽活動（楽器の習得・合唱・音楽祭開催等）		●名作映画会
●地区対抗運動会の実施	●ギネス世界記録に挑戦（例：踊り、バトンリレー等）	
●花火大会実施	●夜店・屋台等の出店	●住民や地域外に向けたPR強化
●地域行事（収穫祭や盆祭り等）開催後の後夜祭実施（ざっくばらんに話ができる場）		
●システムの導入	●初動体制強化（マニュアル等）	●定期的な避難訓練の実施
●拠点の定期的な点検実施	●施設の耐震化、老朽化設備の更新等	
●飲食スペース設置強化	●東城3本桜PR（県内天然記念物指定桜で相互協力等）	
●ルート整備	●芝滑りの設置	●中腹から望む田んぼアート
●キャンプ場の設置		
●お祭り体験	●着物を着て歴史体験、ガイド犬	●子供神楽共演会参加（広島東照宮）
●各地区ごとの出店強化	●収穫野菜ジャンボ大会	●その場で収穫・その場で食す
●地元住民の認知度向上と、家庭のメニューに取り入れる等により定着化させ地域外へPR		
●体験型修学旅行	●合宿・林間学校	●田舎体験旅行（若者や団塊世代等）
●花見会（エドヒガンを眺めながらのバーベキュー実施）		●タイムカプセル設置
●デイホーム+保育所＝地域の寄り合い所		●高齢者が教える子ども向け習い事教室
●空き家活用制度の構築	●土地建物所有者の意識啓発	●就職先の斡旋

6. 地域づくりのアイデア

ワークショップの中で出た取り組みに関するアイデアを、今後実施していく事業として検討します。

		短期（約1～2年）	中期（約5年）	長期（約10年）
地域福祉	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者が固定することなく、多くの高齢者が参加できる講座を開設 ○95歳以上の祝敬老訪問 ○一人暮らしの方の把握を、民生委員、振興区、支部長それぞれが声掛けをしているが、される側は困惑しており、情報共有が必要 ○イベント開催時の高齢者の交通手段確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が生きがいを持って生き生きと生活できるシステムの構築 ○サロンの立ち上げと充実 ○送迎バスの検討・増加 ○生活交通と買い物バスが一体化したボンネットバスを運行 ○おたがいさまネットの検討 ○移動スーパーや食を届ける事業の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○リハビリ施設等を振興区でカバー、または、にこにこ体操の拡大により補助金を申請 ○一人暮らしの孤立防止（居住地の集約化） ○八幡中学校を高齢者が共同で生活できる施設に改装 ○医療体制の充実 ○積雪が多い冬期の一時避難型共同住宅の整備
	地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ○交流会の実施 ○地域のことを皆で話し合う ○子どもと地域住民の交流 ○中学生・高校生の参加 ○知恵を教わる機会を設ける（量の拭き方等） ○グラウンドゴルフの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○振興区発信のイベントを開催し、各世代が交流を深める ○エドヒガンにより八幡の人と他地域の人の交流を深める ○収穫祭で地区のテントで出し物を行い、交流を深める ○各イベントの相互協力（エドヒガン、収穫祭等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○青年会の復活 ○スポーツやサークルの推進 ○地域サークルへの助成 ○スポーツ少年団への助成（野球・剣道・スキー等） ○成人・団体への助成（バスケット・グラウンドゴルフ等） ○地域の伝統継承（小左衛門踊り等）
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○若者を新年会に無料招待する ○若者に専門部や研修会に出席してもらおう ○口説き・太鼓の人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修会の助成（経営コンサルタント） 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ指導者の育成
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時に地域ができることを確認しておく（高齢者、子ども優先） ○災害が起きた際、振興区は住人を把握した上でどう動くのか、定期的に確認しておく ○集落点検の実施 ○防災アイテムの補完 	<ul style="list-style-type: none"> ○震災合同訓練の実施 ○OBと連携を図る ○防災手帳をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難者情報の整備 ○意味のあるハザードマップの作成

		短期（約1～2年）	中期（約5年）	長期（約10年）
観光	環境・イベント・設備	<ul style="list-style-type: none"> ○環境美化 ○川の清掃実施 (蛍や魚の住む川にする) ○エドヒガンのPR推進 桜まつり 出店等の拡大 植樹 ○翁草を増やし、エドヒガンとともに八幡をPR ○八幡駅の活用（1日駅長等） ○徳雲寺・八幡神社・千年杉のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ○エドヒガン受け入れ体制整備 ○飯山登山の充実 ○プップウソウ、渡り鳥の保護 ○市民農園の開設 (芋掘り、大根抜き等) ○神楽の推進 ○出店を進める (野菜、花、加工品等) ○山菜の活用（春の天ぷら等） ○ホームページの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○八幡中心地の開発 ○八幡をまわるルートづくり (飯山から白滝山へ) ○桜のメロディーロード設置 (川鳥 松の木線) ○佐藤信介監督の映画撮影 ○空き家の活用 (お茶屋、コテージ、バンガロー、キャンプ等 上記宿泊に、川遊び・昆虫採集等を加えて魅力アップ) ○オートキャンプ場設置 (災害時にも活用) ○サイクリングコース設置・大会開催 ○川鳥大金池付近の整備 (ボート、見晴らし、桜等) ○釣り堀設置 ○紅葉谷整備 ○八幡中学校に公園、アスレチック、グラウンドゴルフ、貸し農園(畑)等を設置 ○モトクロス、バギー等の施設の設置 ○温泉検討(オンパク) ○列車で行く観光事業検討
	特産品	<ul style="list-style-type: none"> ○庄原市逸品づくりへの参加 ○ホームページで特産品のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ○休耕田で特産品づくり ○八幡ならではの特産品づくり (ゆず、梅、柿、ラーメン、ハブソウ茶、米等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページで特産品の販売 ○受注生産(味噌、餅等)
	交都流市部との	<ul style="list-style-type: none"> ○農業体験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○民泊の推進 ○グリーン・ツーリズムの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○田舎暮らし研究サロンの実施
移住・定住	生活・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ○婚活イベントを開催 ○婚活登山を開催 ○定年退職者へのUターン対策検討 ○クラス会開催時にふるさと情報を交換、Uターンに繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ○Iターン支援システムの推進 (保証人協会等) ○空き家バンクの活用 ○空き家予備のとりまとめ ○空き地(農地含む)の見直しを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○八幡中学校を住宅に改装 ○雇用の創出 ○農業研修、就農までのシステムづくり(行政と連携した農業研究生の受け入れ) ○企業誘致
	子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て交流会を空き家で実施 ○通学児童見守り隊をつくる ○スポーツクラブ(子ども)の充実 ○新入生(小・中)へお祝い金進呈 	<ul style="list-style-type: none"> ○八幡保育所にこにこ号発進 ○病児保育室の設置 ○放課後児童クラブの拡充 (対象年齢の拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援の充実 ○保育所と小学校を同じ敷地内に設置

		短期（約1～2年）	中期（約5年）	長期（約10年）
その他	自治振興区	<ul style="list-style-type: none"> ○情報発信の検討 ○地域マネージャーの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門部の新設・削減・統合 <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流・生涯学習の統合 ・定住促進は機能が明確になるまでは役員会で行い、その後部として設置 ・特産品は観光に統合もしくは役員会で行う ・体協の充実（体育部にする） ・事業を実施している地区にのみ補助金を給付 	<ul style="list-style-type: none"> ○国道から振興センターへのアクセス改善 ○若者に任せる（やる人がいないという考え方ではなく、新しい発想を期待）

